



佐々木 大三郎 議員
(市民クラブ)

一問一答方式

防災対策について問う



自主防災訓練でAEDの取扱説明を受けている

問.....

防災マップが全戸配布されてから丸1年になるが追加や更新の考えは.....

答.....

土砂災害危険区域が新たに47カ所追加された。また、風化させてはならない過去の被害状況等の記録も掲載して更新する。

問.....

自主防災組織の防災

答.....

地区センターを中心に自主防災組織が連携し、研修や訓練を強化する。

問.....

防災訓練では、身内や友人の安否確認がいち早く可能な「災害用伝言ダイヤル」を活用

答.....

これまで地震の教訓を踏まえ、学校や自主防災組織等からその時の行動内容についてアンケート調査を実施している。その結果を分析し災害対応に生かしたい。

答.....

事業費の財源確保や用地取得、家屋の移転同意など課題が多いことから、当面は洪水吐き水門の設置や河川堆積土砂の除去等の対策を講ずる。

答.....

現在策定中の第2次総合計画の共通優先方針として「産業振興・雇用確保」、「少子化対策・子育て支援」に力を入れる。

問.....

人口減少対策として、何を最優先に掲げて取り組むか。

答.....

現在策定中の第2次総合計画の共通優先方針として「産業振興・雇用確保」、「少子化対策・子育て支援」に力を入れる。

問.....

遠野市内の賃金は県内他市と比較して安い傾向にある。若者を地元に着させるには、他市並みの賃上げが必要と考える。企業トップに賃上げ要請してはどうか。

答.....

地元企業に対し、賃上げ要請は可能であるが、生活しやすい住環境も重要であることから、併せて検討したい。

問.....

空き家バンク情報の内容を充実させ、移住希望者の要望に応えられる体制を整えるべきでは。

答.....

空き家バンクの登録物件数は少なく、不十分と認識している。もっと件数を増やして移住希望者とのマッチングが円滑になるようにしたい。

認知症対策の現状と今後の方向性は

問.....

認知症の総合的な施策はどのような方向性にあるのか。

答.....

今年4月末で、本市の65歳以上の要介護認定者は1,963名のうち、認知症の症状を有するものは、1,152名であり、58.7%を占めている。現在、本市の認知症サポーターは1名のみであり、

市医師会との連携や県への支援要請を行いながら、認知症サポーターの確保を図りたい。

また、認知症の介護者等が適切なサービス等を利用するための「認知症ケアパス」を作成。さらに「認知症カフェ」を通じて正しい知識、悩みを打ち明けられる場を継続していく。

問.....

認知症サポーター養成

答.....

成は進んでいるのか。

認知症について正しい理解、偏見を持たず、認知症の方や家族を温かく見守る応援者であり、民生児童委員や地域団体等を対象に講座を開催し、平成26年度末で延べ2,266名を養成、今年度は、2,500名の計画である。

問.....

地域での見守り体制

答.....

は充実されているか。

地域で見守り支えあう「認知症高齢者等徘徊SOSネットワーク事業」を実施し、警察・消防・社会福祉協議会等が協力し体制を整え、生活関連事業者である、ガス・電気・水道・郵便局等の22団体と協定を結び、連携による見守りシステムの構築を図っている。

問.....

認知症高齢者の権利擁護対応はなされているか。

答.....

判断能力は不十分な



菊池 巳喜男 議員
(市民クラブ)

一問一答方式

【その他の質問】

- 学校教育の充実について
- 県立高校再編の状況について



平成 27 年度認知症サポーター養成講座の様子